

大学・高専機能強化支援事業（支援2：高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援）
【大学 一般枠、特例枠】実施状況報告書

Table with 5 columns: 年度, 大学名, 学校種, 学部, 事業計画名. Row 1: 令和5年度, 金沢大学, 大学, 工学部, 高度情報専門人材養成の拡大を実現するITシステム金沢大学モデル - 情報分野の産業界人材・研究者の需要に応える体制の確立

1. 年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画（上掲：研究等の設置及びその準備（設置認可申請等）、下掲：教育現場の整備（設備整備、教員採用等）、教育活動の充実等の取組）と取組状況及び自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組がある場合は取組状況に取組を赤字で記載してください。また、計画変更申請した場合は取組状況に承認日と赤字で記載してください。
計画の変更のない実施内容に関する事項は等、自己評価が下位2つの場合は、理由（理由）とその対応を記載してください。計画進捗に実施できており、その他課題がない場合は取組状況に赤字は不要です。

Main table with 4 columns: 事業年度, 事業計画, 取組状況, 自己評価、課題（理由）とその対応. Rows are organized by year from 令和5年度 to 令和14年度, with multiple rows per year for different implementation phases.

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

2. 申請資格の確認

該当しない場合は、チェックしてください。

i) 学生募集停止中の大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

ii) 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iii) 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

iv) 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

v) 大学、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第2条第1号又は第2号のいずれかに該当する者が設置する大学

該当無し	<input checked="" type="checkbox"/> チェック
------	--

3. 申請要件の取組状況

令和5年度の取組が当初の計画通りに進んでいる、又はチェック項目に該当する場合はチェックしてください。計画通りに進んでいない、又はチェック項目に該当しない場合は右欄に課題（理由）とその対応を記載してください。

①	高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、学部を置かない大学や新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。	
	確認を受けている <input checked="" type="checkbox"/> チェック 対象に該当しない <input type="checkbox"/> チェック	
②	志願者数の状況や入学定員及び収容定員充足率等を踏まえた十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
③	産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な資格保証の枠組みを活用するなど出口における資格保証にも十分留意することが重要。）	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
④	特定成長分野のうちデジタル分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑤	計画の対象となる研究科・専攻等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑥	特定成長分野のうち情報系分野に係る研究科、専攻、コース等の設置・増員（研究科、専攻の定員の増員を伴わないものを含む）、専攻に係る課程の変更（研究科、専攻、コース等の設置・増員及び専攻に係る課程の変更に伴う学部、学科、コース等の設置・増員（学部、学科の定員の増員を伴わないものを含む）を含む。）（以下「研究科等の設置等」という。）による体制強化の計画であること。なお、コース等の設置・増員による体制強化の場合は、学則において、コース等の募集人員数を明記する計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑦	社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る研究科等の設置等の取組であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑧	教育の実績を有する既設の情報系分野に係る研究科、専攻（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学において、高度情報専門人材を育成する計画であること。（大学（特許特）については、既設の情報系分野に係る学部、学科（授与する学位が、学位種類分野変更基準に定める理学関係、工学関係又は農学関係のいずれかを学位の分野として含むものに限る。）を有する大学とする。）	
	既設の情報系分野に係る研究科等を有する <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑨	機構による事業計画の進定があった日から2年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる研究科等の設置等を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑩	計画の対象となる研究科等の設置等において、大学院修士課程（博士前期課程を含む。）15名以上又は大学院博士課程（博士後期課程を含む。）5名以上の入学定員の増員を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑪	国立大学について、大学全体の収容定員の増員を伴う学部定員の増員を行う場合は、国立大学法人の第5期中期目標期間終了時まで他学部・他学科を中心に同規模の定員減を行う計画であること。	
	計画通りに進んでいる、又は対象に該当しない <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑫	教員の確保・配置状況等を踏まえた実現可能性の高い計画となっていること。	
	計画通りに進んでいる <input checked="" type="checkbox"/> チェック	
⑬	文部科学省が実施する数理・データサイエンス・A1教育プログラム認定制度における「応用基礎レベル」について、大学又は計画の対象となる学部若しくは計画の対象となる研究科に関連する主な学部が認定を受けている、又は認定を受ける計画があること。なお、学部を置かない大学で、本認定制度の対象に該当しないものについては、本要件は適用されない。	
	認定を受けている、又は対象に該当しない <input checked="" type="checkbox"/> チェック 認定を受ける計画が進んでいる <input type="checkbox"/> チェック	

フォローアップ対象年度	令和5年度	大学名	金沢大学
-------------	-------	-----	------

③ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	
認定を受けておらず申請する意向もない	<input checked="" type="checkbox"/> チェック

4. 審査項目における確認項目の計画及び取組状況

令和5年度の取組実績及び申請時の計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

① 地域において自治体や企業等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>金沢大学においては、新たな知と人材による価値創造と新たな資本・資源の連携の好循環による大学の強固な財政基盤の確立に向け、大学・自治体・企業単独ではなく、「大学も自治体も企業も」一体となり社会課題を解決すべく、北陸地区国立4大学と北陸経済連合会及び北陸の企業・団体で構成する「北陸未来共創プラットフォーム」を設置している。このプラットフォームを利用し、既に自治体や企業等と先行実施しているドッグテータやプログラム解析等をはじめ、自治体、企業のみならず、公私立大学・大学コンソーシアムを含めた高等教育機関との連携強化を図り、自治体や自治体等が求める人材ニーズを把握しながら、その人材ニーズに応える高度情報専門人材の輩出に向けたインターンシップ科目の設定や地域企業や自治体と連携した教育プログラムの開発を行う。</p>	<p>【融合学域スマート創成科学類】 地元企業へのアンケートを基に、正課の単位修得を行えるスキリングプログラムをR6年度より開始しており、数理的基礎及び統計理論を学ぶ「文理融合データサイエンスプログラム」を提供している。 また、令和6年1月26日、一般社団法人石川県情報システム工業会（ISA）と融合学域は、包括連携協定を締結した。令和5年度は、連携の第一歩として今後のインターンシップにつながる交流イベントを開催し、ISA会員企業4社、学生10名が参加した。令和6年度以降は、ISA会員企業でのインターンシップ、各種交流会、社会実装を見据えた共同研究等の展開を計画している。</p> <p>【理工学域電子情報通信学類】 金沢大学では、地元企業へのアンケートを基に、正課の単位取得を行えるスキリングプログラムをR6年度より開始しており、AIとIoTの基礎知識習得を支援するAI&IoTプログラムを提供している。また、石川県、金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学と連携したデジタル分野スキリング推進事業にも参加している。更に、環境エネルギー材料創成（日本電信電話株式会社先端集積デバイス研究所）と先進IoTシステム技術創成（三菱電機株式会社）という2つの連携講座を実施している。その他にも、北陸セキユテイフォーラム（HIRPセキユテイ人材育成分科会）に参加する金沢工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、企業の方々と同フォーラムのセミナー、及び、人材育成プログラム「セキユテイ・ミニキャンプ in 石川 2023」を開催した。2024年度の開催も計画当中である。</p>	

② 初等中等教育段階の学校との連携に関する取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>本学では、県内外の教育委員会、科学館等と連携し、小中学生を対象に、自らが科学技術に対して課題意識をもた、主体的に問題解決を行い探究する子どもの育成を目的に「金沢大学ジュニアドクター育成塾」を主催。また、将来グローバルに活躍しうる傑出した科学技術人材の育成を目的に、地域で卓越した意欲・能力を有する高校生等を対象に、国際的な活動を含む高度で体系的な学修と実践を提供する高大接続実践教育プログラム「グローバルサイエンスキャンプ」を実施。さらに、高校生等を対象に、セミナー等様々な探究的学びの機会を提供する「KUGS高大接続プログラム」を開講し、セミナー等の受講後、定められた課題を提出し、評価基準を満たした場合、「KUGS特別入試」の出願資格が取得できる制度を整備。今後、高度情報専門人材の養成に向けて、さらなる初等中等教育段階の学校との連携強化を図るとともに、これら事業を一体的有機的に展開し、デジタル人材に関する授業や教育プログラムを開発する。</p>	<p>【融合学域スマート創成科学類】 金沢大学ジュニアドクター育成塾及びグローバルサイエンスキャンプを統合・発展させた「金沢大学STELLAプログラム」が令和5年度に採択されており、令和5年7月5日開催の融合学域広報・学生募集委員会で融合学域の教員も協力することが承認されている。今後は融合学域の教育を高校生へ提供することや高校生の研究指導にも参加する予定である。更に、KUGS高大接続プログラムにおいて、Webセミナー「AIoT時代の技術から社会へのつながり」を実施している。高度情報専門人材の養成に向け、今後も引き続き、これらの取り組みを推進していく。</p> <p>【理工学域電子情報通信学類】 理工学域では、①石川県教育委員会、②金沢市教育委員会、③金沢子ども科学財団との共催、後援により、石川県内の小中高校生を対象とするイベント「理学の広場」（①共催）、「ふれてサイエンス&くわくろロジー」（②③後援）、「もりのび教室」（②③後援）を開催している。また、「金沢大学STELLAプログラム」のうちAIoT分野の専門科目において、データサイエンス入門～あらゆるものをネットワークで制御①-1 基礎的プログラミング講座について大学教員による講義及び演習が実施された。更に、KUGS高大接続プログラムにおいて、Webセミナー「AIoT時代の技術から社会へのつながり」を実施している。高度情報専門人材の養成に向け、今後も引き続き、これらの取り組みを推進していく。</p>	

③ 女子学生、社会人学生、留学生等の確保に向けた特色ある取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>●融合学域・新学術創成研究科【学士課程】社会人及び留学生の特別選抜を実施し、融合学域独自の奨学制度を整備している。女子学生比率は36.8%と低いものの、女子学生のさらなる確保に向けて令和7年度入試から、女子特別入試（定員4名）を導入。【博士前期課程】【博士後期課程】「文理融合の知と最先端の科学技術を共修するグローバル人材育成プログラム」の活用や、独自奨学制度を継続拡充し、社会人、留学生の確保を目指す。●理工学域・自然科学研究科【学士課程】令和6年度入試から、女子特別入試（定員3名）を導入。今後、女子枠の拡大に向け検討を行い、順次設けていく。【博士前期課程】【博士後期課程】留学生の確保に向け、DDP・デュアルを実施しているが、今後、多くの留学生在が応募しやすいよう改善を図る。また、社会人の有する研究業績を前向きに評価することを通して博士後期課程を短期修了できる連携講座を設定し社会人学生の学位取得機会を増やす。</p>	<p>●融合学域・新学術創成研究科【学士課程】 令和6年度入試を行い、次の通りの実施状況であった。 （社会人選抜）志願者1名、合格者1名、入学者1名 （私費外国人留学生入試）志願者0名、合格者0名、入学者0名 （在外留学生推薦入試）志願者1名、合格者1名、入学者1名 融合学域独自の奨学制度については、社会人対象及び外国人留学生向けにそれぞれ整備しており、令和6年度入試では、在外留学生推薦入試の合格者1名に対して適用することとした。 女子特別入試は、令和6年度女子入学者数を踏まえて検討する予定である。 【博士前期課程】【博士後期課程】 総合創成科学専攻（生物）（博士前期課程）については、社会人特別選抜及び外国人留学生特別選抜を設けることとして、設置申請後の令和6年3月下旬に広報を開始した。</p> <p>●理工学域・自然科学研究科【学士課程】 令和6年度入試から、女子特別入試（定員3名）を導入した。今後、学生募集方法を検討し、広報活動を強化する。また、女子枠の拡大に向け検討を行い、募集人員の増員を行う。 【博士前期課程・博士後期課程】 留学生の確保に向け、DDP・デュアルを実施しているが、更に多くの留学生在が応募しやすいプログラムへの改善並びに新しいプログラムの検討をおこなった。</p>	

④ 他の大学（外国大学を含む）、高等専門学校等と連携した取組を行う計画となっているか。

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
<p>石川県工業高等専門学校において、令和7年度より電子情報理工学を除く本科4学科で高度情報専門人材を養成するコースを新設し、40名の定員増を行う予定であり、融合学域スマート創成科学類への3年次編入に向けて、先取り履修を行うなど、その接続を促す取組を実施する。また、本科電子情報理工学から理工学域電子情報通信学類への3年次編入に向けても、同様先取り履修等の接続を促す取組を実施する。さらに、高専本科のコース新設を基点とした学年進行に伴い、当該コースの学生が専攻科に進学する令和12年度は、高度情報専門人材の養成に向け、当専攻科と本学融合学域スマート創成科学類及び理工学域電子情報通信学類の双方の強み、教育資源を活用した教育内容の高度化を図る連携教育プログラムを開始する。これにより、当連携教育プログラムを修了した学生からの金沢大学大学院への進学も促すとともに、再機関による共同研究のさらなる活性化も目指す。</p>	<p>編入学促進に向けて、教育の体制、学生の身分、入学前教育、入学定員、入試方法、学費等について、事業採択以降継続的に石川県工業高等専門学校と協議を行った。また、石川県工業高等専門学校で1月に金沢大学編入学の説明会を行い、合計で約50名が参加した。来年度も引き続き協議を続け、具体化していく。 また、融合学域においては、令和6年度から広く全国高校生等に本学の授業科目も履修する機会を提供するため、高校生及び高専1～3年生向けの授業科目選定等の準備を行った。なお、高専4年生以上は、通常科目自習履修生の枠で履修可能である。</p>	

大学名	金沢大学	改組内容	研究科等の設置・増員+学部等の設置・増員（一般枠）
-----	------	------	---------------------------

3-3. 学士課程

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
大区分	小区分	項目	単位																				
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,726	1,836																		
		入学者数	人	1,777	1,905																		
	その他の学期	入学定員	人	0	0																		
		入学者数	人	2																			
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,726	1,836																		
		入学者数(B)	人	1,779	1,905																		
		入学定員充足率 (B/A) :	倍	1.03	1.04																		
	収容定員等	収容定員(C)	人	7,393	7,523																		
		編入学定員	人	95	105																		
		在籍者数(D)	人	7,855	7,998																		
		編入学者数	人	77	70																		
		収容定員充足率 (D/C) :	倍	1.06	1.06																		

4. 外部資金の状況（全学）

年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	
項目	単位																				
外部資金獲得額	千円	8,832,979																			

特記事項

「2-3. 学士課程」に関し、融合学域スマート創成科学類においては完成年度前であることから、卒業生はいない。そのため、理工学域電子情報通信学類のみを計上している。
「2-1. 博士課程」「3-1. 博士課程」「3-2. 修士課程」「3-3. 学士課程」に関し、その他の学期の入学定員欄は、若干名を指している。